

東京	都道府県	国立・公立・私立	(フリガナ)
学校名	K 小学校		担当者氏名 H 先生

◆ 活用内容

第1学年 「10より おおきい かず」

単元のねらい：20までの数について、構成と読み方、書き方を理解する。また、数の系列・大小関係を理解し、数直線上に表す。

実践の様子：授業の始めの10分を百玉そろばんの時間として設定し、数の構成や系列の習熟のために活用した。

● 20までの数の数え方

- ・1つずつ玉を入れ、音に合わせて数を唱えていく。(20まで)

「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10,

11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20」

- ・2つずつ玉を入れ、音に合わせて数を唱えていく。(2とび)

「2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20」

- ・5つずつ玉を入れ、音に合わせて数を唱えていく。(5とび)

「5, 10, 15, 20」

- ・20から1つずつ玉を減らしていき、音に合わせて数を唱えていく。

「20, 19, 18, 17, 16, 15, 14, 13, 12, 11,

10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, 0」

- ・20から2つずつ玉を減らしていき、音に合わせて数を唱えていく。

(2とび)「20, 18, 16, 14, 12, 10, 8, 6, 4, 2, 0」

- ・20から5つずつ玉を減らしていき、音に合わせて数を唱えていく。

(5とび)「20, 15, 10, 5, 0」

● 20までの数の合成・分解

- ・百玉そろばんで階段を作り、10の合成を唱えていく。

「1と9で10, 2と8で10, 3と7で10・・・」

続いて10と0でというように10以上の数の合成を唱えていく。

「10と1で11, 10と2で12, 10と3で13・・・」

- ・10の分解を唱えていきながら、百玉そろばんを分けていく。

「10は1と9, 10は2と8, 10は3と7・・・」

同様に20までの分解を唱えていく。

「11は10と1, 12は10と2, 13は10と3・・・」

● ばらばらで

◆ 成果（児童の反応、期待など）

- ・初めは珍しそうに操作をしていた児童。右に左に動かしたり、カチッと音がするのを楽しんだり、玉で形を作ってみたり、自由に操作する時間を設け、百玉そろばんに慣れ親しんだ。
- ・数を数える場面では、全員の音がカチッと揃うことに心地よさを感じていた。
- ・具体物を見ながら数えたり、自分で操作しながら数えたりすることができるので、数を捉えやすかったのではないかと感じた。
- ・数直線上に表す際も、「これは、2とびだ」「これは、下りの5とび」など、児童から声が出てきた。授業の始めに百玉そろばんを使って繰り返し確認していたため、児童にとってイメージしやすく、効果的だったと感じる。合成や分解においても、具体物の移動を確認しながら行うことができるので、理解に時間がかかる児童にとっても助かっている様子である。
- ・算数ブロックのように1つ1つがばらばらにならず、つながっているので操作しやすいと感じた。また、100 こという数の多さも、算数ブロックにはないよさがある。
- ・今後、繰り上がりのあるたしざんや、繰り下がりのあるひきざん、おおきいかず（100 までのかず）など数に関する単元が多くある。有効的な活用方法を考えていきたい。

